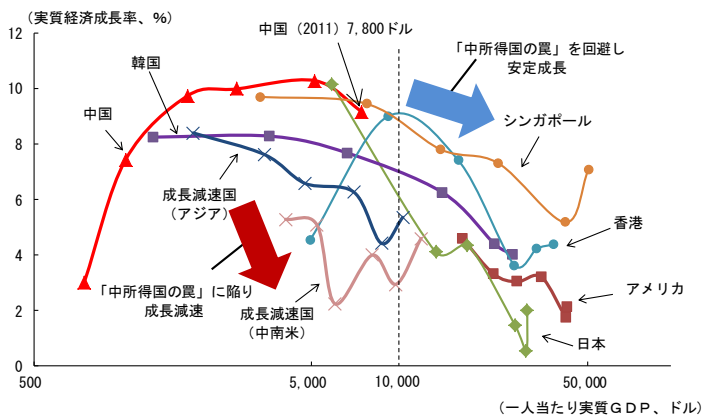


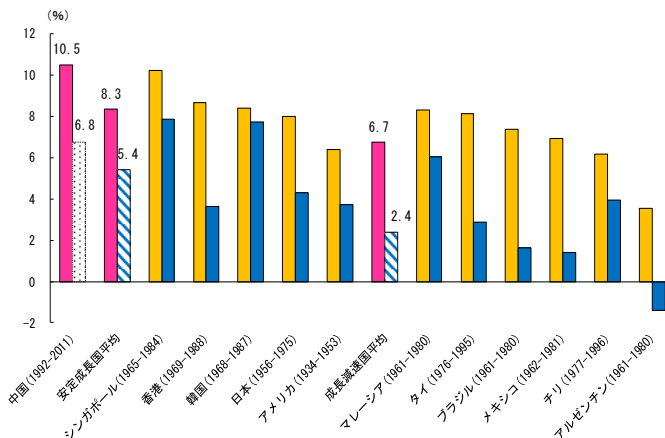
第2章第1節 中所得国の罾の回避に向けて ①中国の安定成長移行への課題

- 中国は、高度経済成長が続いてきたが、「中所得国の罾」に陥るのではないかと懸念も。(第1～2図)
- 投資率の屈折を乗り越え安定成長へ移行するには、イノベーションの寄与を高めることが必要。中国は安定成長国と同様に全要素生産性(TFP)上昇率が堅調に推移してきたものの、鉄鋼業等を中心に稼働率が低下しており、過剰設備投資の兆しも。(第3～5図)

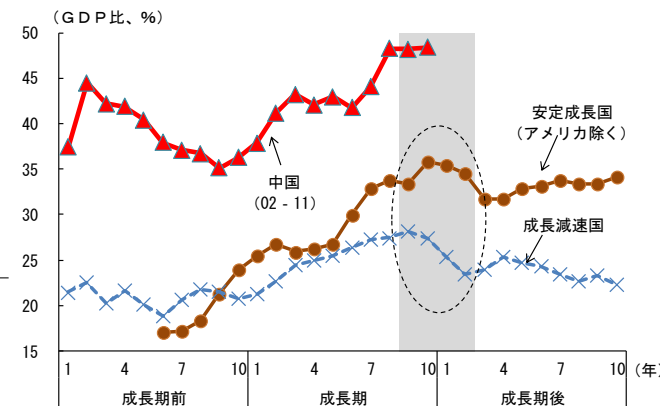
第1図 一人当たりGDPと成長率



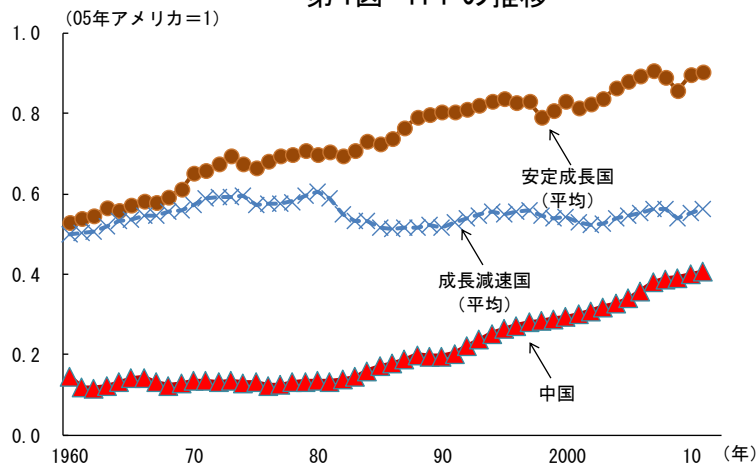
第2図 高度経済成長前後の成長率



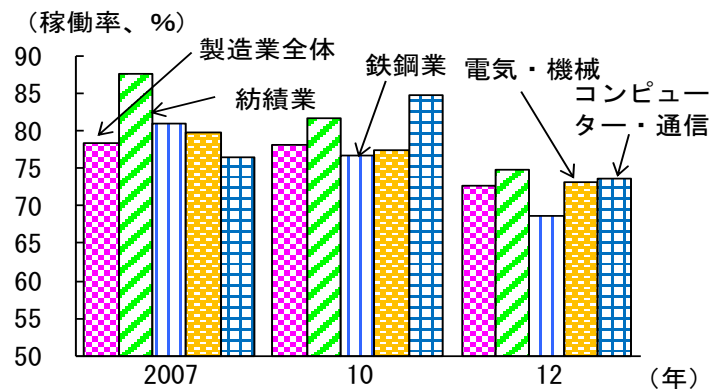
第3図 投資率の推移



第4図 TFPの推移



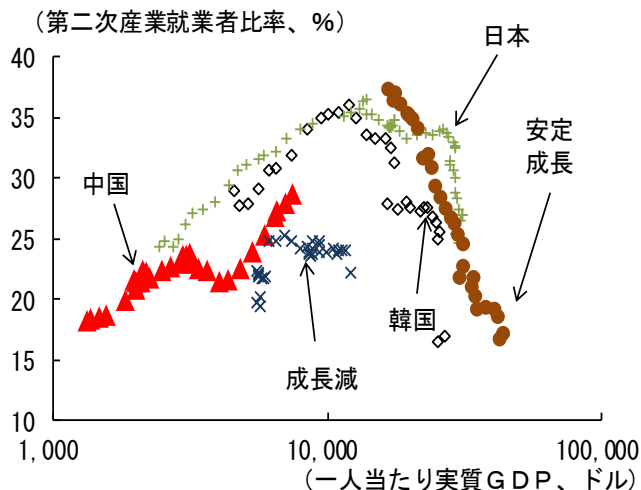
第5図 設備稼働率の推移



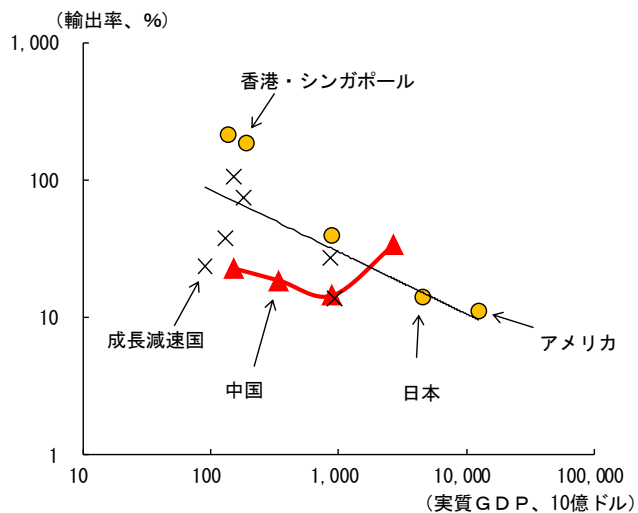
第2章第1節 中所得国の罫の回避に向けて ②技術集約度向上が鍵に

- 安定成長に移行するためには、製造業を核としつつ、輸出・産業の技術集約度向上を図ることが重要。そのためにも、製造業への対内直接投資の役割は引き続き重要。(第6～9図)
- なお、中国特有の課題として指摘される人口ボーナスの消失は成長のマイナス要因となりうるが、中所得国の罫との関係は低い。(第10図)

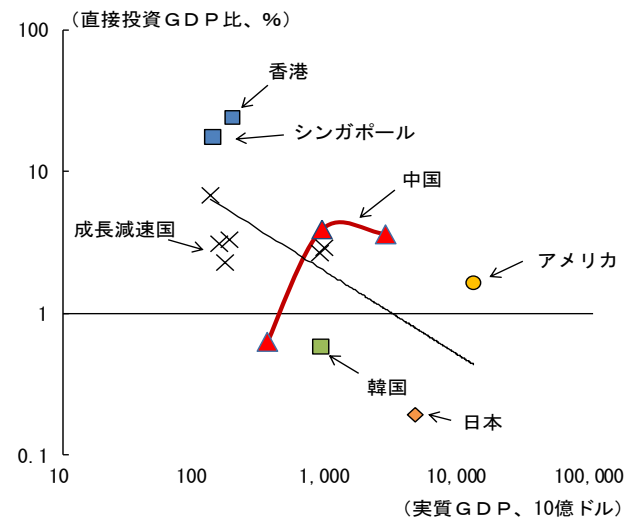
第6図 製造業シェアの推移



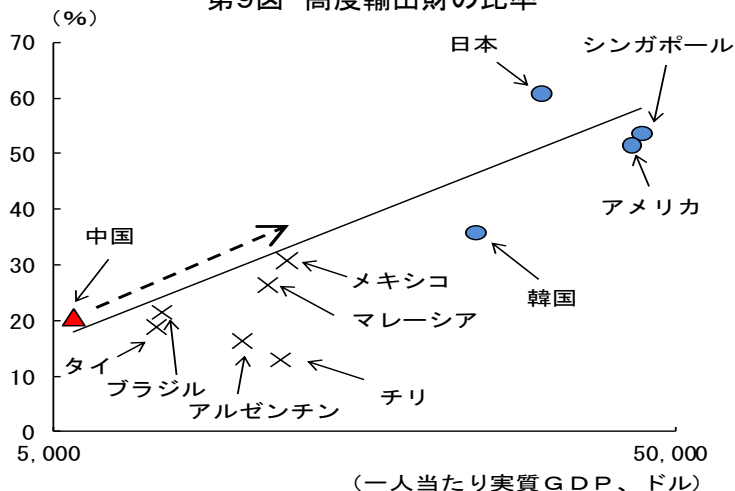
第7図 輸出率



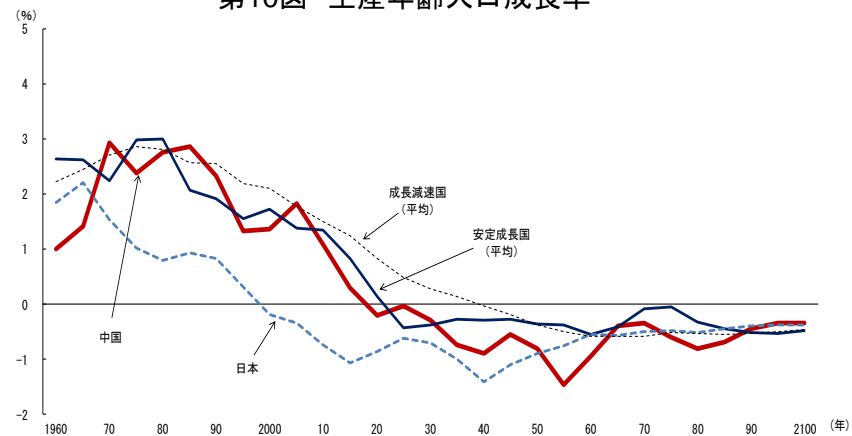
第8図 直接投資(GDP比)



第9図 高度輸出財の比率



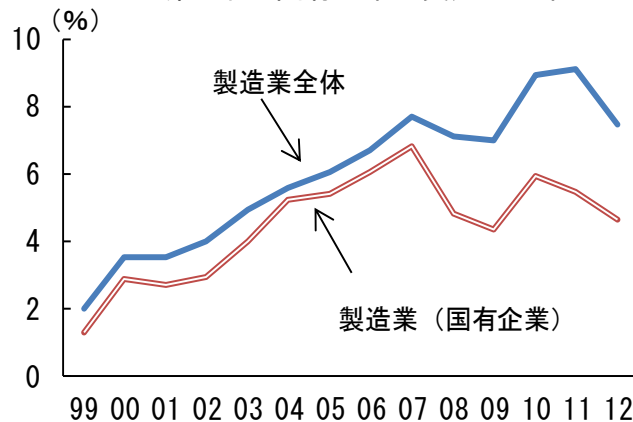
第10図 生産年齢人口成長率



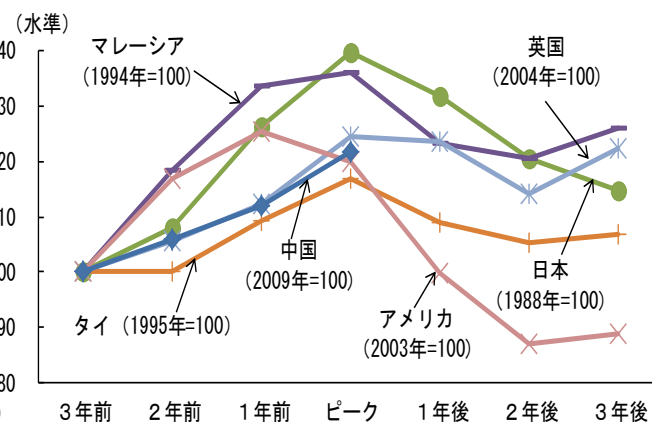
第2章第2節 経済のソフトランディングへの課題

- 09年以降の経済対策の結果、過剰投資を背景に国有企業の経営効率が低下。住宅市場も、不動産価格上昇や不動産価格(年収比)をみると他国の過熱期と同程度。地方政府主導の不動産投資の過熱も。(第11~14図)
- 中国は金融市場自由化の途上。プルーデンス規制の弱さからシャドーバンキングが拡大する動きも。今後は、金利等の調整とは別に、プルーデンス政策(金融監督の強化策)の拡充により金融資本市場の過熱を抑えていくことが必要。(第15~16図)

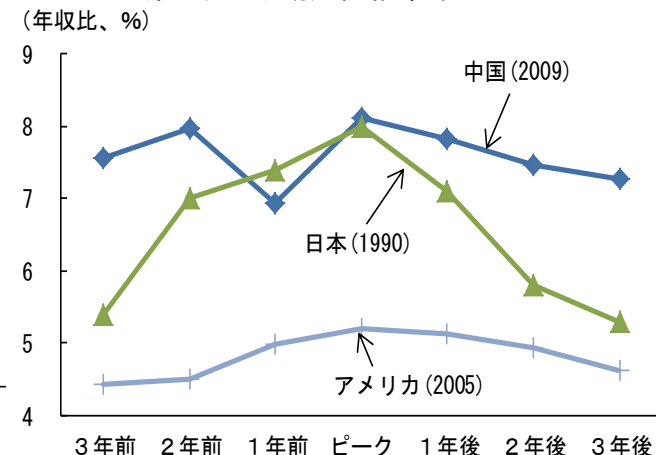
第11図 国有企業の資産収益率



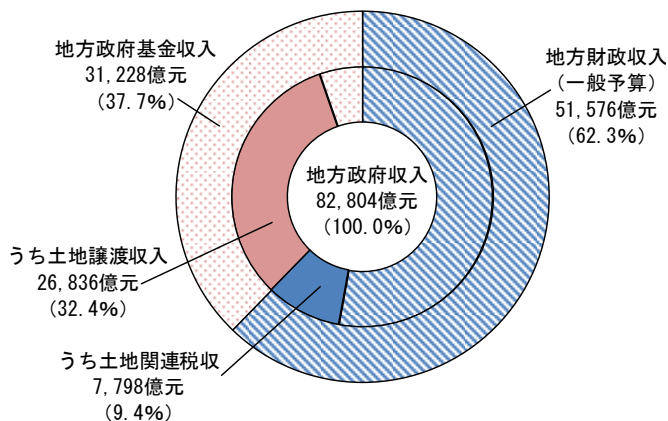
第12図 不動産価格



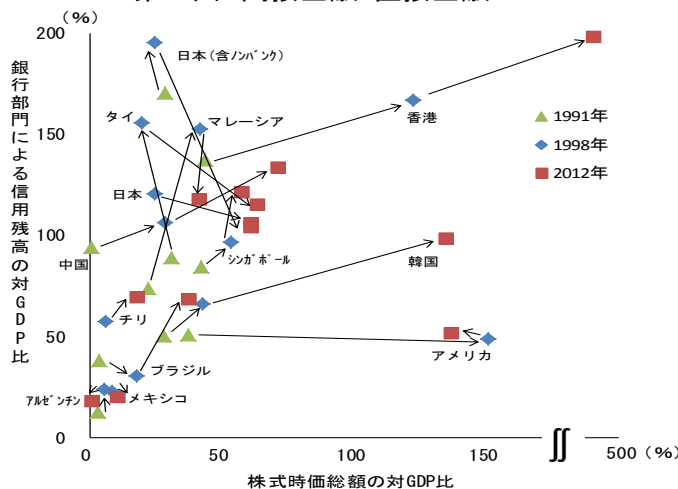
第13図 不動産価格帯年収比



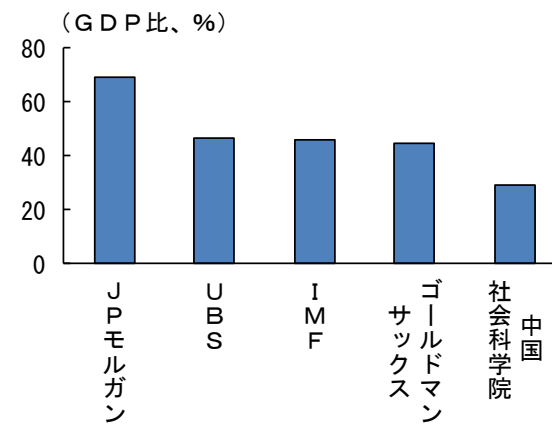
第14図 地方政府の収入構造



第15図 間接金融・直接金融



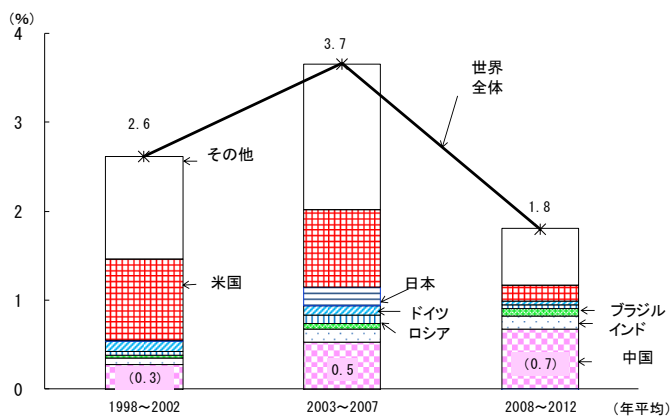
第16図 シャドーバンキングの規模



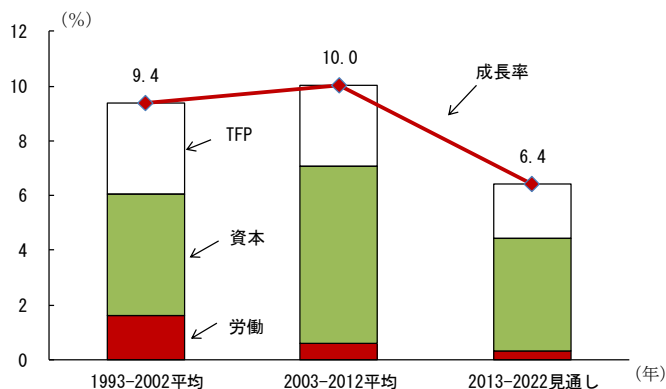
第2章第3節 中国経済の将来と世界経済 ①中国の存在感の拡大と世界との連関

- 中国の世界経済でのシェアは12%となり、最近5年間の世界成長への寄与は約半分に達した。各国成長率GDPとの同時性も上昇傾向。(第17~18図)
- 中国の今後10年間の成長率は「中所得国の罠」に陥らないケースでも6%台半ば程度に低下する可能性。投資率が10%低下した場合は0.7%、教育水準が上昇しなかった場合は0.4%、TFPが伸び悩んだ場合は2.0%、それぞれ成長率を押下げる。今後はTFPの伸びが鍵に。(第19図)
- 世界の貿易を通じた連関として、特にアジア諸国や資源国で対中依存度が上昇。(第20図)
- 世界との資金を通じた連関は限定的ではあるが、実態として資本流入が緩やかに進展。(第21図)

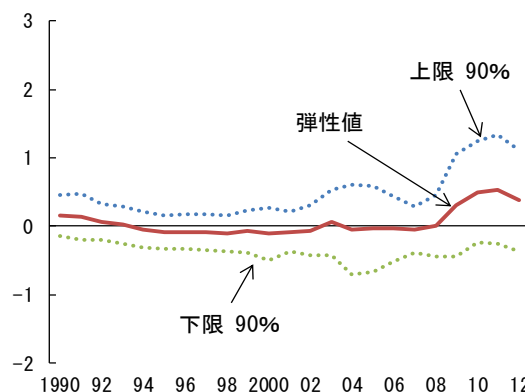
第17図 世界GDPへの中国の寄与



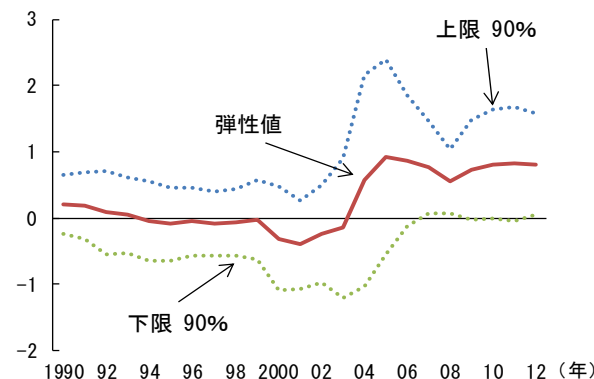
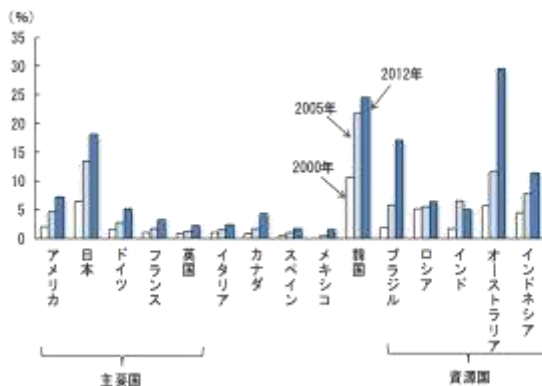
第19図 今後の成長の見通し



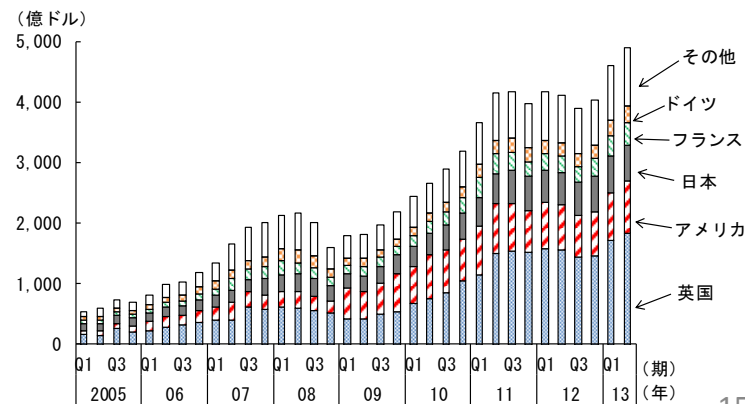
第18図 中国GDP成長率と各国GDP成長率の相関
(1)主要国 (2)資源国



第20図 中国向け輸出のシェア



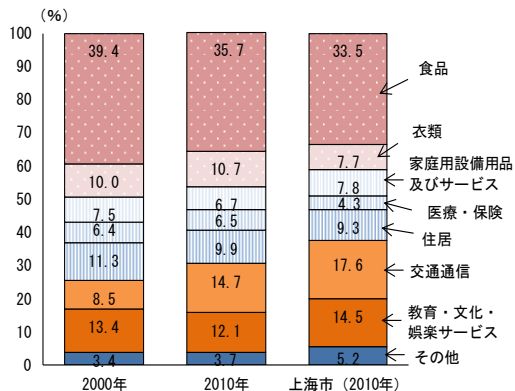
第21図 各国銀行の対中と信残高



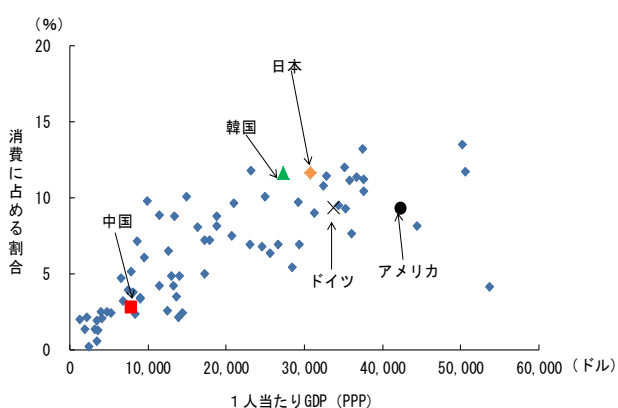
第2章第3節 中国経済の将来と世界経済 ②グレードアップとサービス化の進展

- 所得水準の上昇により、裁量的消費支出が拡大する見込み。家電製品、自動車などの耐久財や、サービス等の上昇が期待(第22～23図)
- 中国の輸出財の技術集約化が進展すれば、先進国を中心に一部で競合関係が中国との間に拡大する可能性。(第24図)
- サービス貿易は国際分業が期待できる分野。中国のサービス輸入は増加しており、対内直接投資もサービス分野で増加。(第25～26図)

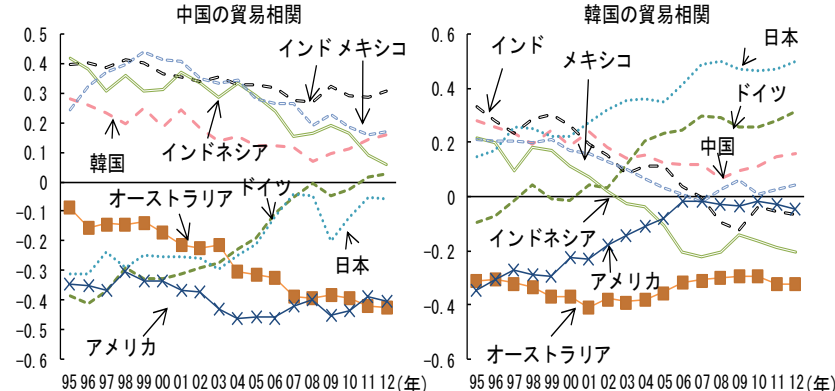
第22図 中国の家計消費の構成



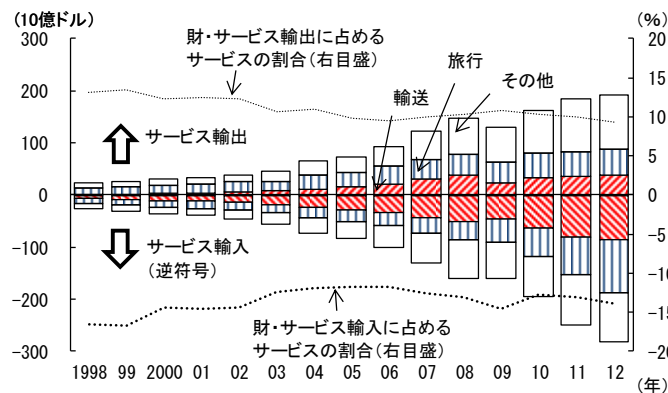
第23図 消費に占める割合(娯楽)



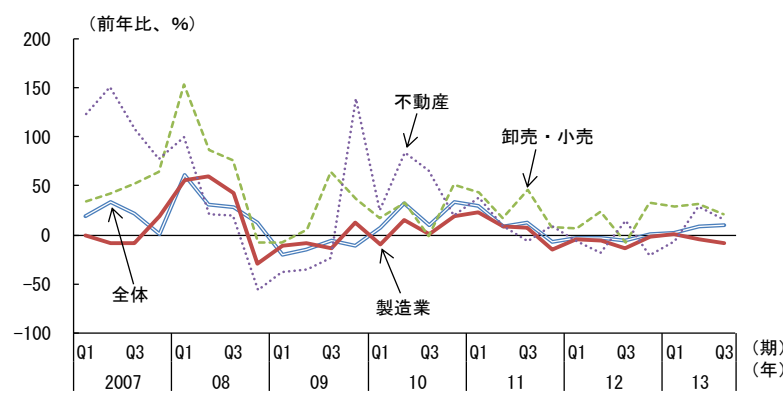
第24図 貿易相関係数



第25図 中国のサービス貿易の推移



第26図 直接投資の推移



- 中所得国の罨を回避し、安定成長に移行するためには、輸出高度化や第二次産業比率の維持によって生産性の上昇を図ることが鍵。中国は概して安定成長国の過去に近く好位置にあるが、国内消費の弱さや人的資本育成の遅れ等、一部に課題も。
- 中国は住宅価格の上昇や信用供給の規模等からみて過剰な融資が行われている可能性。その背景には、自由化の進展に対応したプルーデンス政策の整備の遅れやインセンティブ構造が挙げられる。今後は、規制整備を進めつつ、逐次的に金融市場の自由化等も進めることとなり、ソフトランディングを達成するためにはこれらのナローパスを突破する必要がある。
- 中国の今後10年間の成長率は6%台半ば程度に低下する見込み。その結果、中国依存度の高いアジア諸国や資源国に主に貿易面を通じて影響が波及する可能性。中国の輸出は高付加価値化にシフトし、先進国を中心に一部で競合の拡大が予想される。一方で、耐久消費財やサービス消費の拡大により、新たな市場拡大の可能性も。